

O-1-3-20 補填材なしの上顎洞底挙上・即時埋入の10例

○山内大典^{1,2)}, 渡辺孝夫^{1,2)}, 浅井澄人^{1,2)}, 高橋常男¹⁾

¹⁾神奈川歯科大学 人体構造学講座, ²⁾日本歯科先端技術研究所

Ten cases of simultaneous implant placement and maxillary sinus floor elevation without bone substitute

○YAMAUCHI D^{1,2)}, WATANABE T^{1,2)}, ASAI S^{1,2)}, TAKAHASHI T¹⁾

¹⁾Oral Anatoray, Kanagawa Dental College, ²⁾Japan Institute for Advanced Dentistry

I 目的: 今回我々は、上顎白歯部歯槽骨高度吸収症例に補填材なしで上顎洞底挙上即時埋入を行った10例を報告する。

II 症例の概要: 症例は、男性3例、女性7例、総数10例、年齢は52歳から68歳で平均 60 ± 5.4 歳であった。全症例全身的に大きな問題はなかった。手術は2003年9月から2008年7月間に行った。インプラントは合計17本埋入した。手術前の洞底歯槽骨頂間径はCT画像のクロスセクショナル像より 1.13mm から 6.18mm で平均 $3.07 \pm 1.8\text{mm}$ であった。手術は、全症例静脈内鎮静法を行い、洞内アプローチは側方5例、垂直法5例であった。上顎洞内側壁に沿わせるようにインプラントを埋入、カバースクリューを装着、縫合、補填材を用いないで手術を終了した。

III 経過: 全症例完全に2回法で行った。二次手術までの待機期間は平均 6.1 ± 1.2 か月(最少4月、最大9か月)であった。手術後から待機期間中までに上顎洞感染を疑う所見はなかった。二次手術時のペリオテスト値は平均 0.4 ± 1.5 (最少-2、最大03)と良好であった。最終補綴物は二次手術より平均2か月後装着した。咬合荷重を与えてからの観察期間は平均 54 ± 21 か月(最短38か月、最長77か月)であった。全症例ともに現在まで良好に経過している。

IV 考察および結論: 上顎白歯部歯槽骨高度吸収症例にインプラントを埋入する場合、上顎洞底を行い挙上スペースに補填材を填塞することが一般的な手法となっている。しかし、一旦感染すると補填材が感染源となり炎症を助長し、遷延化するとリカバリーが困難になる。渡辺らは、イヌ前頭洞を使った実験で、補填材を使用しなくても、洞粘膜を挙上するだけで十分な骨結合面積およびインプラント骨結合比率を獲得できると報告している。今回の10症例から、上顎白歯部歯槽骨高度吸収症例であっても、上顎洞内側壁に沿わせるようにインプラントを埋入すること、十分に間隔をあけてから咬合負担をかけることなどを考慮することにより、補填材なし上顎洞底挙上即時インプラント埋入術が臨床応用可能と考えられた。